

第1回 大田区再犯防止推進協議会 議事要旨

《日時》 令和4年1月27日（木曜日）午後3時

《会場》 オンライン会議システムによる開催

《議事》 意見交換

講話

《参加委員》

大田区再犯防止推進会議委員

大田区保護司会	会長
大田区保護観察協会	会長
大田区更生保護女性会	会長
大田区BBS会	会長
大田区自治会連合会	副会長
大田区社会福祉協議会	会長
大田区民生委員児童委員協議会	副会長
大田区青少年対策地区委員会	会長
大田区立中学校PTA連合協議会	会長
おおた社会福祉士会	会長
おおたTSネット	代表

庁内連携部署

総務部	総務課長 法務担当課長
福祉部	福祉支援調整担当課長 自立支援促進担当課長 子ども生活応援担当課長 高齢福祉課長 障害福祉課長
地域力推進部	青少年健全育成担当課長
健康政策部	生活衛生課長
教育総務部	指導課長 副参事（法務担当）

《資料》 大田区をとりまく現状について

（大田区再犯防止推進計画冊子掲載データより）

進行：

1 委員長選出

委員の互選により、大田区保護司会会長を委員長として選出した。

2 議事要旨

大田区をとりまく現状について、大田区再犯防止推進計画冊子掲載データをもとに事務局から説明があった。

つづいて、大田区における再犯防止対策について、意見交換を行った。

《主な意見》

- ・ 出所者の就労支援、出所後の住まいの確保、保護司等の再犯防止に関する関係団体のサポート体制を強化することが重要である。
- ・ 社会を明るくする運動等、諸行事をとおして地域の繋がりを強化し、地域における再犯防止に対する気運を高めることが重要である。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な活動が制限されているが、そうした中でも常にアンテナを張り、新しい情報を収集し、活動の大小に関わらず再犯防止対策を継続していくことが必要である。
- ・ 社会を明るくする運動等に参加し、大田区における再犯防止対策への理解を深めていきたい。
- ・ 大田区における再犯防止対策に関わる各団体が活動を継続するにあたり、財源等の課題がある。各団体の負担にならないようにしなければならない。
- ・ 犯罪から地域社会へ復帰するには、周囲の理解が欠かせない。

3 講話要旨

《講話1 東京保護観察所 民間活動専門支援官》

大田区では、23区の中でも他区に先駆けて再犯防止推進計画を策定するなど、再犯防止対策に力を入れていることを承知している。

出所受刑者の2年以内再入率が15.7%となり、16%以下にするという政府目標を達成した。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための各種取組の中止や縮小は影響が大きい。

特に薬物事犯では再犯率が高いが、民間の薬物依存症回復支援施設を利用していた出所者はコロナ禍以前と同様のケアを受けることが困難となっている。

犯罪からの立ち直りには、住居・就労、就学、福祉等、多岐にわたる、息の長い支援を必要とする。大田区再犯防止推進計画の連携部署の

皆様にもご協力願う。

《講話2 大田区保護司会 保護司》

保護司会では、新たな犯罪や非行を繰り返さないよう、面接を行い指導・助言している。保護観察対象者の更生につながる環境整備は、処遇向上や対象者の特性に応じた指導や支援、社会資源の整備が重要である。

保護観察官の指導の下、薬物依存回復プログラムとして、保護観察対象者及び刑期満了者とのグループミーティングを月に1度実施している。

参加者の感想や、刑の修了者も継続参加していることから、ミーティングの有効性を感じている。

保護司を題材にした漫画やドラマもでき、保護司の活動の一部をご理解いただけるのではと思っている。

事務局：大田区総務部総務課総務担当